

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年11月13日

【四半期会計期間】 第145期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 株式会社ニッカトー

【英訳名】 NIKKATO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 西 村 隆

【本店の所在の場所】 大阪府堺市堺区遠里小野町3丁2番24号

【電話番号】 072-238-3641 (代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役常務 経理部長 清 水 奉 明

【最寄りの連絡場所】 大阪府堺市堺区遠里小野町3丁2番24号

【電話番号】 072-238-3641 (代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役常務 経理部長 清 水 奉 明

【縦覧に供する場所】 株式会社ニッカトー 東京支社
(東京都文京区大塚5丁目7番12号NKビル新大塚)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第144期 第2四半期累計期間	第145期 第2四半期累計期間	第144期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	3,925,214	3,683,580	7,908,956
経常利益 (千円)	118,344	132,230	326,777
四半期(当期)純利益 (千円)	66,822	82,519	191,502
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	1,320,740	1,320,740	1,320,740
発行済株式総数 (千株)	12,135	12,135	12,135
純資産額 (千円)	8,669,643	8,877,091	8,777,099
総資産額 (千円)	11,347,496	11,934,408	11,667,629
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	5.60	6.91	16.04
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	5.0	5.0	12.0
自己資本比率 (%)	76.4	74.4	75.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	407,850	△276,205	992,522
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△81,755	△54,591	△166,021
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△104,424	52,487	△314,360
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,410,490	1,422,652	1,700,961

回次	第144期 第2四半期会計期間	第145期 第2四半期会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	5.59	3.91

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
- 4 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、前年度の好調を受けスタートいたしましたが、4月からの消費税がアップいたしましたことによる景気の反動から中々抜け切らず、また新興国の経済の回復が遅れていることなどにより、一転停滞感の中で推移いたしました。

このような状況のもとで、当社は前期末で増加いたしました受注残高を活かすべく社内外にて積極的な活動を行いました。この結果、売上高は3,683,580千円となり、前年同期比6.2%の減収となりました。

事業別では、セラミックス事業は電池材料の熱処理用容器が好調であった耐熱セラミックス以外は総じて振るわず、前年同期比2.5%減収の2,661,658千円となりました。

エンジニアリング事業につきましては、昨年は上半期に大型物件があったことで前年同期比14.5%減収の1,021,921千円となりました。

損益面につきましては、セラミックス事業では売上高は減少いたしました。原価低減につとめた結果、営業利益は前年同期比1.3%増益の106,409千円となりました。エンジニアリング事業につきましては、大口の案件がなかったことによる利益率の低下により前年同期比76.4%減益の10,998千円となりました。

この結果、営業利益は前年同期比22.5%減益の117,407千円となりました。一方、経常利益は前年度に100周年記念行事費用があったものが今年度はなかったことから前年同期比11.7%増益の132,230千円、税引前四半期純利益は前年同期比9.1%増益の128,494千円、四半期純利益も前年同期比23.5%増益の82,519千円となりました。

(2) 財政状態の分析

資産は、流動資産で前払金等の増加により前期末比6.1%増加しましたが、固定資産で減価償却の進行等により前期末比2.7%減少しましたため、前期末比2.3%増の11,934,408千円となりました。

負債は、流動負債が前期末比0.6%の微減ながら、固定負債が長期借入金や繰延税金負債の増加により前期末比50.1%も増加しましたため、前期末比5.8%増の3,057,316千円となりました。

純資産につきましては、株主資本にほぼ増減なく推移しましたが、株式市場における保有株式の株価上昇に伴い、その他有価証券評価差額金が増加しましたため、前期末比1.1%増の8,877,091千円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末の現金及び現金同等物は1,422,652千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、大口前払金の発生によりその他資産の大幅増となり、276,205千円のマイナスとなりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得を同額の定期預金の解約でカバーしましたが、設備投資に伴う機械装置等有形固定資産取得で54,591千円のマイナスとなりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済や配当金の支払いを長期借入金の調達で賄いましたため、52,487千円のプラスとなりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(会社の支配に関する方針)

当社は、財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針並びに不適切な者によって支配されることを防止するための取組み等を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条3号に掲げる事項）は次の通りです。

(I) 基本方針の内容

当社は、当社の財務内容及び事業の方針の決定を支配する者について、当社の事業特性並びに株主の皆様やお取引先をはじめ地域社会、従業員等の各ステークホルダーとの間に築かれた関係や当社の企業価値を十分に理解し、当社の企業価値及び株主様同様の利益を中長期的に確保し、継続的もしくは持続的に向上させる者であることが必要と考えております。

また、当社は、当社株式の大規模買付行為が行われた際に、これに応じられるかどうかは、最終的には株主の皆様のご自由な意思と判断によるべきものであると考えておりますが、一方では、大規模買付行為の中には、その目的等から見て当社の企業価値及び株主様共同の利益に明白な侵害をもたらすものがあることも否定できません。

したがって、当社の企業価値及び株主様共同の利益の確保・向上に反する当社株式の大規模買付行為を行うおとす特定の者、あるいはグループは、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えております。

(II) 不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための

取組み

買収者から買収の提案を受けた際に、当社株主の皆様が当社の有形無形の経営資源、将来を見据えた施策の潜在的効果その他当社の企業価値を構成する要素を十分に把握した上で、当該買収が当社の企業価値及び株主様共同の利益に及ぼす影響を短時間のうちに適切に判断することは必ずしも容易ではないものと思われま。したが、買収の提案が行われた場合に、当社株主の皆様の意思を適正に反映させるためには、まず、当社株主の皆様が適切に判断できる状況を確保する必要があり、そのためには、当社取締役会が必要かつ相当な検討期間内に当該買収提案について誠実かつ慎重な調査を行った上で、当社株主の皆様に対して必要かつ十分な判断材料(当社取締役会による代替案を出す場合もあります。)を提供する必要があるものと考えます。

また、買収者による買収の中には、その目的や態様等から見て、企業価値及び株主様共同の利益をかえりみることなく、もっぱら買収者自らの利潤のみを追求しようとするもの、株主の皆様様に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、当社の取締役会や株主の皆様が株式の買収内容等について検討し、あるいは当社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの等、当社の企業価値及び株主様共同の利益を損なうと思われるものも少なくありません。

かかる認識に基づき、当社取締役会は、当社の企業価値及び株主様共同の利益に反する大規模買付行為を抑止するためには、大規模買付行為の提案が行われた場合に大規模買付行為を行おうとする者(以下「大規模買付者」といいます。)、及び当社取締役会が遵守すべき手続きについて客観的かつ具体的に定めることが必要であると考え、「大規模買付行為に関する対応方針(買収防衛策)の導入」(以下、本プランといいます。)を平成21年6月25日開催の第139回定時株主総会で承認を得て導入をいたしました。この買収防衛策は、有効期限が平成24年6月30日までに開催される第142回定時株主総会終結の時までとしておりましたので、当社の企業価値及び株主様共同の利益をさらに向上させるために第142回定時株主総会において第139回定時株主総会と同様に出席株主の皆様のご承認を得て継続しました。

本プランは、取締役会の恣意的な判断を排除し、株主の皆様のために本プランを発動及び廃止等の運用に際して実質的な判断を客観的に行う機関として、独立委員会を設置しています。独立委員会は当社社外監査役及び社外の有識者の中から選任され、社外監査役1名と社外の有識者2名の計3名より構成されています。

対象となる大規模買付行為とは、①当社が発行する株式等について、特定株主グループの議決権割合が20%以上となる買付等、②特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社の他の株主との合意等をいいます。

大規模買付者は、事前に当社に対して、本プランに定める手続きを遵守する旨の「意向証明書」を提出していただき、当社取締役会が「意向証明書」を受領後当社株主様の判断及び当社取締役会としての意見形成のために必要かつ十分な情報を提供していただきます。なお、独立委員会は、当社取締役会を通じ、必要情報の提供を受けるものとしま。

当社取締役会が十分な情報提供がなされたと判断した場合は、当社取締役会は、必要情報提供完了後60日間(対価を現金のみとする公開買付)、または90日間(その他)の検討期間を設定します。ただし、さらに内容の検討や代替案の作成等で必要な場合は、10日間検討期間を延長することができるものとしま。

当社取締役会は、検討期間内に、独立委員会に諮問し、当該大規模買付行為の内容の評価・検討等を行い、独立委員会からの勧告を最大限尊重した上で、当社取締役会としての意見を取りまとめ、公表いたします。また、必要に応じて、株主の皆様のご意見の把握に努めたり、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について協議・交渉をし、当社株主の皆様に対し代替案を提示することもあります。

大規模買付者が本プランに定める手続きを遵守した場合には、当社取締役会は、対抗措置を採ることが相当と認められる場合を除き、原則として対抗措置を採りません。また、大規模買付者が本プランに定める手続きを遵守しなかった場合、当社取締役会は対抗措置を採る場合があります。

対抗措置の具体的内容としましては、新株予約権無償割当等で、新株予約権無償割当を行う場合は、買付者等が権利行使できない新株予約権を当社取締役会が定める一定の日における全ての株主様に対して、所有する当社の普通株式1株につき1個以上で、当社取締役会が別途定める数の割合で新株予約権無償割当をいたします。

本プランの有効期限は平成27年6月30日までに開催される第145回定時株主総会の終結の時までとします。ただし、定時株主総会において本プランの継続が承認された場合は、有効期限はさらに3年間延長されるものとします。また、有効期限の満了前であっても、当社株主総会または当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議がなされた場合は、本プランはその時点で廃止されるものとします。

(III) 上記(II)の取組みに関する取締役会の判断について

当社取締役会は、上記(II)の「不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み」が、当社の基本方針に沿って策定されたものであり、当社の企業価値及び株主様共同の利益を確保・向上させるものであると判断しております。

また、本プランは定時株主総会における株主の皆様からのご承認をもって発効され、かつ有効期限前でも株主総会において変更または廃止決議がなされた場合は、その時点で実行される等、株主の意思を重視したものであります。

さらに、独立委員会の設置等、当社取締役会による恣意的な判断を防止する仕組みを確保するとともに、毎年定時株主総会における取締役の選任(当社取締役の任期は1年)を通じて本プランの継続につき株主の皆様意向を反映させることが可能となっております。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における当社の研究開発活動の総額は97,013千円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,280,000
計	37,280,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,135,695	12,135,695	東京証券取引所 (市場第一部)	単元未満株式は100株であ ります。
計	12,135,695	12,135,695	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年9月30日	—	12,135,695	—	1,320,740	—	1,088,420

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ニッカトー取引先持株会	大阪府堺市堺区遠里小野町3丁目2番24号	651	5.36
東ソー株式会社	東京都港区3丁目8番2号	599	4.93
株式会社チノー	東京都板橋区熊野町32番8号	574	4.73
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	499	4.11
ニッカトー従業員持株会	大阪府堺市堺区遠里小野町3丁目2番24号	466	3.84
株式会社共和電業	東京都調布市調布ヶ丘3丁目5番1号	400	3.29
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町2丁目6番1号	353	2.90
株式会社ツバキ・ナカシマ	奈良県葛城市尺土19番地	300	2.47
西村 明	東京都目黒区	250	2.06
株式会社クボタ	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	200	1.64
計	—	4,293	35.37

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	
議決権制限株式(その他)	—	—	
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 198,500	—	
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,919,900	119,199	
単元未満株式	普通株式 17,295	—	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	12,135,695	—	—
総株主の議決権	—	119,199	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が100株(議決権1個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式94株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ニッカトー	大阪府堺市堺区遠里小野 町3丁2番24号	198,500	—	198,500	1.63
計	—	198,500	—	198,500	1.63

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、清稜監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,690,343	1,562,027
受取手形及び売掛金	2,734,785	2,624,820
有価証券	30,618	30,624
商品及び製品	594,367	643,524
仕掛品	1,188,377	1,232,570
原材料及び貯蔵品	286,354	287,786
その他	99,102	647,498
貸倒引当金	△500	△500
流動資産合計	6,623,448	7,028,353
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,604,825	1,566,664
機械及び装置（純額）	1,206,653	1,110,109
その他（純額）	689,406	680,383
有形固定資産合計	3,500,885	3,357,157
無形固定資産	25,710	24,152
投資その他の資産		
投資有価証券	1,189,511	1,447,529
その他	328,073	77,215
投資その他の資産合計	1,517,585	1,524,744
固定資産合計	5,044,181	4,906,054
資産合計	11,667,629	11,934,408
負債の部		
流動負債		
電子記録債務	146,842	335,811
買掛金	1,184,099	989,044
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	221,448	232,644
未払金	205,916	261,259
賞与引当金	184,800	182,600
役員賞与引当金	14,125	7,062
その他	172,410	107,153
流動負債合計	2,529,642	2,515,575
固定負債		
長期借入金	100,048	224,204
退職給付引当金	6,993	-
役員退職慰労引当金	115,806	122,456
資産除去債務	38,041	38,365
その他	99,999	156,715
固定負債合計	360,888	541,741
負債合計	2,890,530	3,057,316

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,320,740	1,320,740
資本剰余金	1,225,438	1,225,438
利益剰余金	6,162,248	6,161,206
自己株式	△86,295	△86,387
株主資本合計	8,622,131	8,620,998
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	154,967	256,093
評価・換算差額等合計	154,967	256,093
純資産合計	8,777,099	8,877,091
負債純資産合計	11,667,629	11,934,408

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	3,925,214	3,683,580
売上原価	3,173,010	2,979,820
売上総利益	752,204	703,759
販売費及び一般管理費	※1 600,648	※1 586,352
営業利益	151,555	117,407
営業外収益		
受取利息	1,148	1,009
受取配当金	13,611	14,146
その他	8,152	7,692
営業外収益合計	22,912	22,848
営業外費用		
支払利息	5,828	5,107
100周年記念行事費用	47,750	-
コミットメントフィー	2,545	2,637
その他	0	280
営業外費用合計	56,123	8,025
経常利益	118,344	132,230
特別損失		
固定資産廃棄損	519	3,735
特別損失合計	519	3,735
税引前四半期純利益	117,824	128,494
法人税、住民税及び事業税	63,100	41,000
法人税等調整額	△12,098	4,975
法人税等合計	51,001	45,975
四半期純利益	66,822	82,519

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	117,824	128,494
減価償却費	300,538	248,751
貸倒引当金の増減額(△は減少)	300	-
受取利息及び受取配当金	△14,759	△15,155
支払利息	5,828	5,107
投資有価証券売却損益(△は益)	-	0
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,815	△7,812
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	6,650	6,650
固定資産廃棄損	519	3,735
売上債権の増減額(△は増加)	△174,173	109,964
たな卸資産の増減額(△は増加)	△70,980	△94,782
その他の資産の増減額(△は増加)	31,481	△549,980
仕入債務の増減額(△は減少)	106,121	△6,087
未払消費税等の増減額(△は減少)	49,141	△5,778
その他の負債の増減額(△は減少)	12,075	△17,158
小計	373,383	△194,051
利息及び配当金の受取額	14,564	14,970
利息の支払額	△6,186	△5,521
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	26,089	△91,602
営業活動によるキャッシュ・フロー	407,850	△276,205
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△124,893	△52,996
無形固定資産の取得による支出	△4,217	△273
投資有価証券の取得による支出	△944	△100,891
投資有価証券の売却による収入	50,000	0
貸付けによる支出	△1,000	△1,000
貸付金の回収による収入	1,108	364
定期預金の払戻による収入	-	100,000
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△1,808	204
投資活動によるキャッシュ・フロー	△81,755	△54,591
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△100,000	-
長期借入れによる収入	200,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△150,416	△164,648
自己株式の取得による支出	△83	△91
配当金の支払額	△53,925	△82,772
財務活動によるキャッシュ・フロー	△104,424	52,487
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	221,669	△278,308
現金及び現金同等物の期首残高	1,188,820	1,700,961
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 1,410,490	※1 1,422,652

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
荷造運賃費	27,443千円	31,365千円
役員報酬	32,460 "	32,430 "
従業員給料手当	226,462 "	226,550 "
地代家賃	24,654 "	23,998 "
賞与引当金繰入額	63,413 "	62,167 "
役員賞与引当金繰入額	6,750 "	6,250 "
退職給付引当金繰入額	1,353 "	△2,266 "
役員退職慰労引当金繰入額	6,650 "	6,650 "
福利厚生費	64,997 "	65,130 "
減価償却費	29,061 "	20,112 "

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金	1,399,879千円	1,562,027千円
投資その他の資産に含まれる 長期性預金	250,000 "	— "
有価証券	30,610 "	30,624 "
計	1,680,490 "	1,592,652 "
預入期間が3か月を超える定期預金	△270,000 "	△170,000 "
現金及び現金同等物	1,410,490千円	1,422,652千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	53,718	4.50	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月5日 取締役会	普通株式	59,686	5.00	平成25年9月30日	平成25年12月9日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月20日 定時株主総会	普通株式	83,561	7.00	平成26年3月31日	平成26年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月4日 取締役会	普通株式	59,685	5.00	平成26年9月30日	平成26年12月8日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	セラミックス事業	エンジニアリング事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,730,581	1,194,633	3,925,214
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	2,730,581	1,194,633	3,925,214
セグメント利益	105,011	46,543	151,555

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	151,555
四半期損益計算書の営業利益	151,555

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	セラミックス事業	エンジニアリング事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,661,658	1,021,921	3,683,580
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	2,661,658	1,021,921	3,683,580
セグメント利益	106,409	10,998	117,407

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	117,407
四半期損益計算書の営業利益	117,407

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 2 四半期累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年 9 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	5円60銭	6円91銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	66,822	82,519
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	66,822	82,519
普通株式の期中平均株式数(株)	11,937,401	11,937,215

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第145期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)第2四半期末の配当について、平成26年11月4日開催の取締役会において、平成26年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- ① 配当金の総額 59,685千円
- ② 1株当たりの金額 5円00銭
- ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成26年12月8日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月6日

株式会社ニッカトー
取締役会 御中

清稜監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 石 井 和 也 印
業務執行社員 公認会計士 花 枝 幹 雄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ニッカトーの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第145期事業年度の第2四半期会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ニッカトーの平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。